

事例研究報告

小学校低学年児童の教室からの退室
行動に対するポジティブな行動支援

児童の実態

- 教師の指示が通りにくくなり、教室から逸脱行動を繰り返す児童についての指導です。
- 2年生になって、4月後半までは指示が通り、目立たない子でした。
- ゴールデンウィーク前くらいから徐々に指示が通らなくなり、授業中、教室から退室する行動をとるようになりました。

教員の考え

「教室でみんなと一緒に勉強できるようにしてほしい。」



アドバイザーからの助言

- ・本児と作戦会議を行うことで本児が納得できる目標を設定し、教師と目標を共有することからはじめます。
- ・作戦内容を文字に表し視覚化することで、すべきことが明確にする。
- ・スモールステップで目標設定し、クリアしやすくすることで、次の目標に意欲的に取り組めるようにしましょう。
- ・ご褒美システムを取り入れ、次の目標に挑戦しようとする意欲につながるようにしていきましょう。



指導目標の見直し

授業中，自分の席に〇〇分間，座る。

記録方法と記録

・対象児の各授業における授業参加の状況について，次の4件法で評価を行った。

- 1 授業時間の全てを教室外で過ごす。
- 2 一部を教室外で過ごす。
- 3 全てを教室内で過ごす。
- 4 全てを教室内で過ごし且つ授業の中心となる活動に参加し，且つ不適切な行動がない。

指導1: 自分の席に〇〇分間座る

ミッション1

授業中自分のいすに**10分間**座ります

6月24日~7月1日

ミッション2

授業中自分のいすに**25分間**座ります

7月4日~7月8日

ミッション3

授業中自分のいすに**40分間**座ります

7月11日~7月20日

ミッション4

授業中自分のいすに**20分間**座ります

8月25日~8月31日

ミッション5

授業中自分の席に**40分間**座ります

9月1日~9月9日

ミッション6

1時間のうち**10分はみんなと同じ学習**
をします(40分座って)

9月12日~10月21日

指導1: ミッションシート(〇〇分座る)

へのスペシャルしれい

ミッション⑤ じゅぎょう中. 自分のせきに 40分間すわります.

					9/1	9/2	9/5	9/6	9/7	9/8	9/9
	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	

へのスペシャルしれい (40分すわって)

ミッション⑥ 1時間のうち10分は. みんなと同じ学習をします.

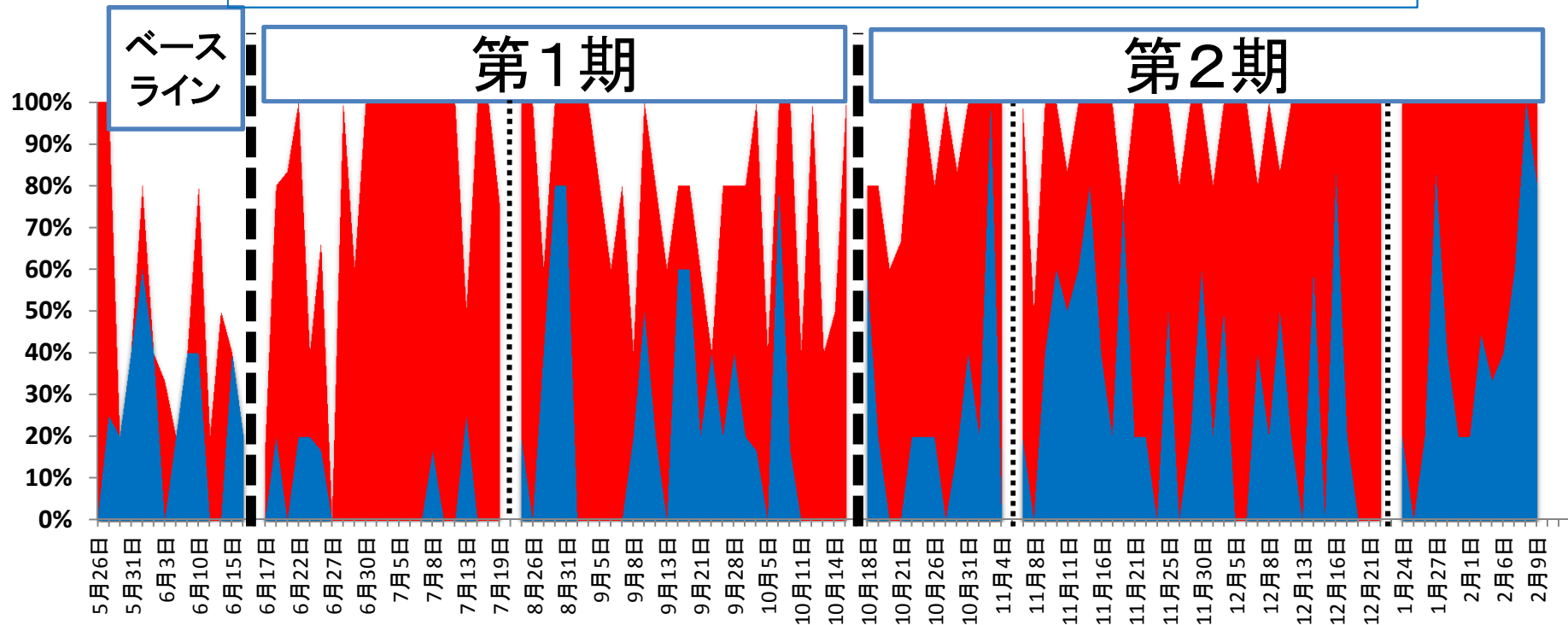
		9/12	9/13	9/14	9/15	9/16	9/18	9/21	9/23	
	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
1	学	生	国	国	席	国	休	国	休	学
2	学	学	算	算	席	音	山	算	山	算
3	体	体	体	体		算		体		体
4	国	算	国	生		生		音		国
5	算	国	音	国		国		国		生
6										

	学	運動会 全体練習	、	国	運動会 全体練習
	国	国	算	算	算
	体	体	体	体	体
	国	算	音	道	国
	算	生	国	国	体
					国

11 14 15 18 20 23

パソコンがつかえます。
ます。
見られます。

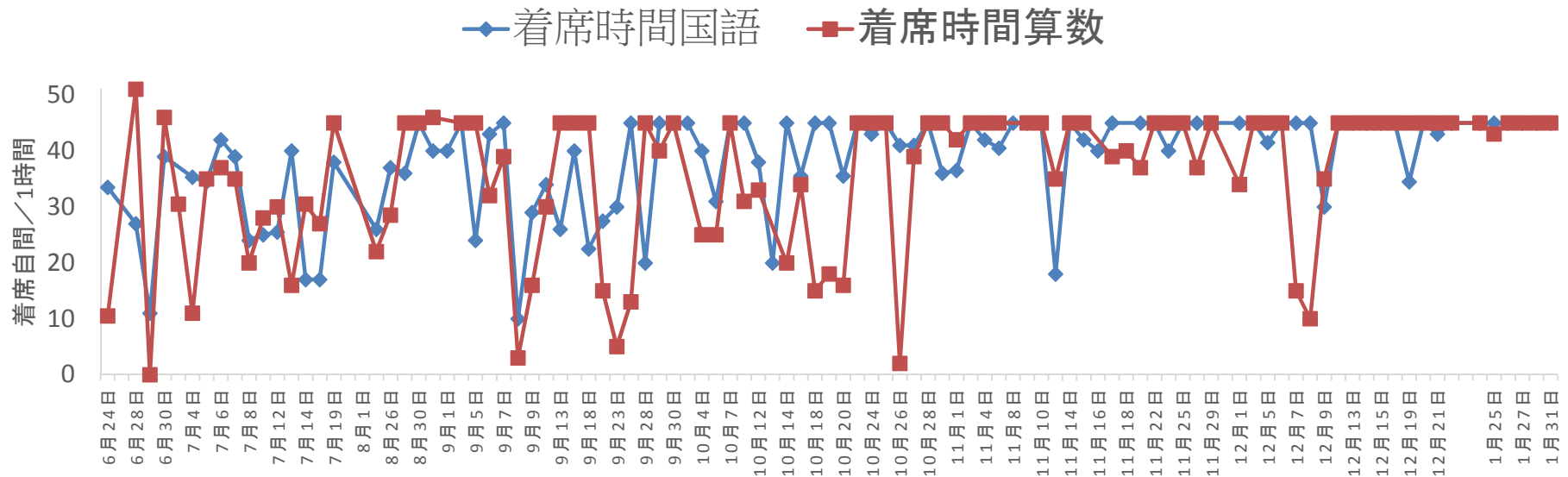
指導1の成果(〇〇分間、座る)



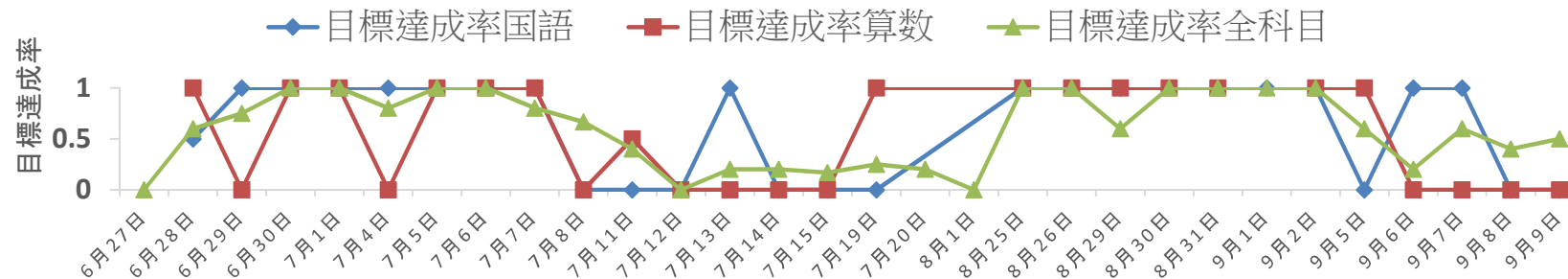
「赤」のグラフの上昇は、教室内にいられるようになったことを表しています。「青」のグラフの上昇は、教室内で不適切な活動をやめて、適切な活動を行えるようになったことを表します。本児が興味のある図工の工作や得意な算数から着席できるようになり褒められることが増えました。また、目標設定時間を無理のない10分からスタートし、スモールステップで延ばしていくことで、目標をクリアしていく達成感をあじわうことができました。

指導1の成果(〇〇分間、座る)

1授業の着席時間(国語・算数)



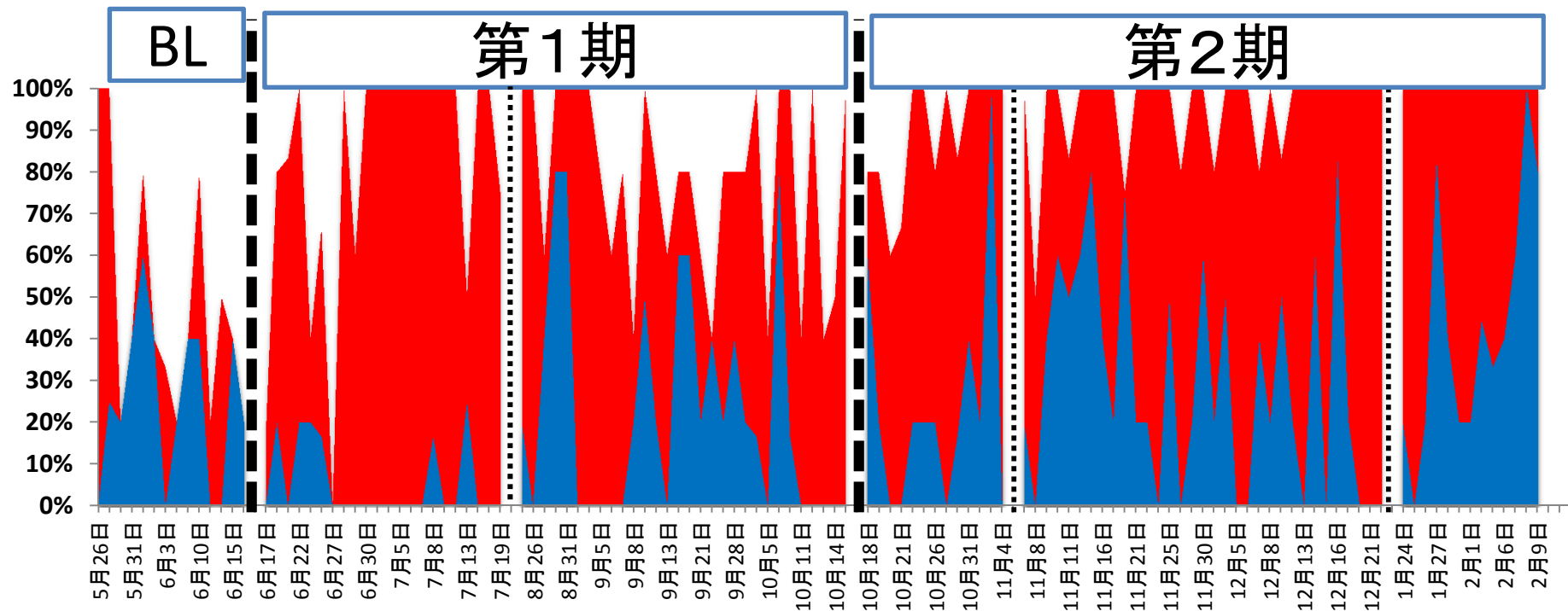
目標達成率グラフ



指導2: 授業中の適切な行動を規定し, 評価を実施

ノート・教科書をじゅんぴする。	火)	国語 (1)	算数 (3)	
えんぴつ・赤えんぴつ・けしゴム・ものさしを出す。	ものさしを出す。	○	○	② す し !
はじまりのチャイムで自分のせきにすわる。	すわる。	○	○	
はじまりのあいさつをする。		○	○	
黒ばんの字をノートに書く。		○	○	
もんだいをとく。かだいをこなす。		○	○	
終わりのあいさつをする。				
○の数の合計			10	サインコメントをお願いします。
	金)	国語 (5)	算数 (2)	生活 (5)
えんぴつ・赤えんぴつ・けしゴム・ものさしを出す。		○	○	○
はじまりのチャイムで自分のせきにすわる。		○	○	○
はじまりのあいさつをする。			○	
			○	
		○	○	○
			○	
サインコメントをお願いします。 今年一年お世話になりました, 来年も を宜しく願っています。			○	○
			13	

指導2の成果(授業中の適切行動を増やす)



すべきことを明確にしたことで、何ができていて、自分の頑張りどころが何なのかを本児が自覚して行動できるようになってきました。また、ご褒美システムに父の協力が加わることで、「もっと頑張ろう!」という本児のモチベーションがアップしました。取り組みが進むにつれ、教師や支援員の指示や注意も素直に聞き入れるようになってきたことにより、「できる→褒められると→また頑張る」という、好循環が生まれてきました。

ここが成功のポイント



○目標設定時間を無理のない10分からスタートし，スモールステップで延ばしていくことで，目標をクリアしていく達成感をあじわうことができた。

○授業中にすべきことを明確にしたことで，何ができていて，自分の頑張りどころ本児が自覚し行動できるようになった。

○ご褒美システムは，できたことに注目するので，本児も教師もプラスの感情が湧き，次は，できていないことに挑戦しようとする意欲につながった。